



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と  
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

## 東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、  
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第19号

2025年12月26日

編集 緒方 なな  
東浦町教育委員会  
SPコーディネーター

### 2025冬休みわくわく算数教室 ～エネルギー～

12月26日、わくわく算数教室3日目も無事に終了しました。わく算は、子どももSPさんもリピーターがたくさんいます。SP控え室も、だんだん賑やかになってきました。SPさんのエネルギー、すさまじいです。子どもに全然負けていません。(むしろ子ども以上かも?!)この若い力、エネルギーが子どもたちにとって大変な魅力になっています。自分が話したことに全力で耳をかたむけ、全力で笑い、全力のリアクションを返してくれます。私もそうですが、多くの親はきっと仕事を終えて家に帰った頃にはクタクタです。とてもじゃないですが、子どもと同じテンションで過ごすなんてできません。“自分だけ”を見て、真正面から向き合ってくれ、全力で大切にしてくれるSPさんがわく算にはいます。わく算はただ算数を勉強するだけではない、子どもたちにとって「ここに来れば自分を見てくれる」「話を聞いてくれる」「大切にしてくれる」、そんな楽しくてホッと安心できる場所になっています。



今日も大賑わいだったわく算。SPさん＝絶対に味方になってくれる大人、と思っている子どもたちがたくさんいます。「昨日ケーキ食べた!」「今日映画を見に行くんだ。」などのあたりさわりのない話題から、時には、「先生にも友達にも言っていないけど……。」などという本音をボソッと漏らすこともあります。こうした子どもたちの些細な“ヘルプ”を大切にしたいですね。「大丈夫かな?」と思うことがあったらぜひコーディネーターや活動している学校の先生に教えてください。SPさんは“パートナー”です。先生・保護者・SPというたくさんの方々の目や耳で、一緒に子どもたちをサポートしていけたら良いと思います。東浦ではSPさんのおかげでより一層手厚い支援ができます。

今日もシニアSPが来て、指導をしたり話をしてくれたりしました。午前の部の後は、4年目の小学校教員であるI先生。午後の部の後は、2年目の高校教員N先生が現場での話をしてくれました。数年前まではみなさんと同じ“SP”でしたが、今はなんとも頼もしい“先生”です。そんな姿を見て、感慨深くなります。嬉しくなります。コーディネーターという仕事の幸せを感じます。

この4年間で大切にしてきたことが2つあります。1つ目は、「子どもを“みる”こと」です。子どもが問題を起こすと、保護者に電話したりして結構大変になるので、多くの先生はまず「問題を起こさないようにしましょう」としています。でも、子どもたちは問題を起こしてしまいます。そんな時、「なんで問題を起こしてしまったのか」と子どもたちの声をちゃんと聞くことを大切にしています。それをきちんと聞いてあげると、子どもも納得していきます。子どもたちは頭がいいので、「この先生は話を聞いてくれるな」「この先生はダメだな」とこちらを見定めてきます。「ダメだな」と思われてしまったら、学級崩壊します。例えば、今日のわく算の1時間半＝90分、自分たちが講義を受けるってなったらしんどくないですか？子どもたちにとってはもっとしんどいはずです。だから、子どもの様子を見て、休憩を取ったりいろいろな手立てを考えたりするのがここ(わく算)ではすごく勉強になります。「しなきゃいけない」「教えなきゃいけない」「指導しなきゃいけない」と思ってしまいがちになるけれども、そういったものを一回とっばらって、まずは目の前の子を“みる”。それを大切にしています。

2つ目は、子どもに素直になることです。教員歴を重ねていくと、自分の間違いを認めるのが難しくなります。先述したとおり子どもたちは頭がいいので「あの先生、言っていること違うけどなあ」と思った時に、素直に「ごめん！間違えた。」と謝れる先生と謝れない先生で差ができてきます。先生が素直に「ごめん」と言えと、クラスの雰囲気も間違いを認められる雰囲気になっていきます。 【I先生】

僕は夜間定時制の学校に勤務しています。夜間定時制はあまり馴染みがないかと思いますが、こちらが思いつかないような環境で生活している子も結構います。いろいろ問題を抱えた子がいて、そうした子を先生たちは「あいつはダメだ」「やる気がない」なんて言ったりもするのですが、自分は何とかしてあげたいと思っています。2学期の最初のテストである子は0点でした。いろいろな問題も起こしていました。でも、良いところや頑張っている姿も見ていたので、「授業で何とかしていこう」と思いました。忘れ物をした時も「じゃあこの紙にやってみよう」、「1問だけでも頑張ってみよう」と声をかけ続けていきました。そうしたら、先日の期末テストではなんと92点を取って1位を取っていました。みなさんが今日やっていたように、これからもどんな子にも寄り添っていきたいなと思って頑張っています。 【N先生】

(2人のシニアSPの話を受けた中村コーディネーターが……)

定時制にいる子たちは、いろいろな部分で恵まれていない子が確かにたくさんいます。しかも、彼らに原因があるわけではないことも多いです。少し前にNHKで『宙わたる教室』と言う実話に基づいたドラマがやっていました。定時制の学校で、科学部を作って、どんどん興味をもたせていく話です。それを見ているとも思いましたが、どういう子たちであれ、勉強に興味をもたせることはできます。自分の持っているものを押し付けるのではなく、その子が何に興味をもっているのか？それを教師側が気づいてやれば伸ばしていくことができます。「この子はどうしたいんだろう？」「この子、本当にこの問題は解けないのだろうか？」「こうしたらできるんじゃないだろうか？」そう思って子どもたちをみてください。わく算でも子どもたち自身の力を引き出してやってください。